

公 共

設 計 図 書

(特記仕様書・位置図・工事数量総括表)

2026 年度施行

伏古6線整備工事

---

芽室町

特 記 仕 様 書

## 特記仕様書

- 20 一般事項
- 01 適用
- 01 共通仕様書

当該工事は、『北海道建設部土木工事共通仕様書』（以下「土木工事共通仕様書」という。）に基づき施工すること。

- 02 土木工事積算基準等

- 1 当該工事の設計図書は、北海道建設部が制定した次の積算基準等に基づき作成している。
  - (1) 一般土木工事  
「土木工事積算要領」、「土木工事積算基準」、「土木工事工種体系化の手引き」
  - (2) 漁港工事  
「漁港関係工事積算基準」、「漁港関係工事工種体系化の手引き・数量算出要領」
  - (3) 下水道工事  
「土木工事積算要領（下水道編）」、「土木工事積算基準」、「下水道工事工種体系化の手引き・数量算出要領」
- 2 「土木工事積算基準」及び「漁港関係工事積算基準」において定めている諸基準に基づき次のとおり扱っている。
  - (1) 機械施工と人力施工等の施工方法や区分は設計図面等から判断し、機械施工が困難である場合を除き、機械施工を標準として積算している。
  - (2) 特記仕様書等で別途明示している場合を除き、各基準において定めている標準工法・標準機種で積算している。
  - (3) 上記（1）（2）については、受注者の任意施工を拘束するものではない。  
ただし、現場条件等がこれにより難しい場合には、必要に応じて設計変更する。
- 3 「土木工事工種体系化の手引き」、「漁港関係工事工種体系化の手引き」及び「下水道工事工種体系化の手引き」において定めている事項を、設計図書の規格・摘要欄に明示しているが現場条件等に差異が生じた場合には、設計変更の対象とする。
- 4 当該工事の数量算出書は、北海道建設部が制定した次の土木工事数量算出要領等に基づき作成している。
  - (1) 一般土木工事  
「土木工事数量算出要領」
  - (2) 漁港工事  
「漁港関係工事工種体系化の手引き・数量算出要領」
  - (3) 下水道工事  
「下水道工事工種体系化の手引き・数量算出要領」

## 特記仕様書

- 5 本設計図書は、北海道建設部が制定した「北海道建設部営繕工事積算要領」に基づき作成している。
- 6 特記仕様書に記載されていない事項について  
図面(工事数量総括表を含む)及び、この特記仕様書に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書 令和7年版(各工事編)」(以下「標準仕様書」という。)、 「公共建築改修工事標準仕様書 令和7年版(各工事編)」(以下「改修標準仕様書」という。)、 「建築物解体工事共通仕様書 令和4年版」(以下「解体共通仕様書」という。)及び、「北海道建設部土木工事共通仕様書(令和6年10月版)」による。

### 03 概数

- 1 「概数として扱う数量一覧表」に示した数量は概数である。概数として扱う事項の施工に当たっては、施工後でなければ数量の確認ができない場合を除き、現地調査終了後速やかに工事監督員と協議し、数量の確定を行い着手すること。
- 2 概数の確定により数量の変更が生じた場合には、設計変更により処理する。  
なお、設計に対して過大な出来形数量に変更するものではないことに留意すること。
- 3 「概数として扱う数量一覧表」で示した仮設工の工事数量は、標準的な工法により算出したものであるため、取り合い等によって新たに必要となる項目についても概数として扱う場合がある。
- 4 当該工事において、設計変更図書の作成(設計変更図面の作成及び工事数量の算出)を受注者に行わせることがある。
- 5 当該工事のうち交通誘導警備員数は、受注者より提出された工程管理(ネットワーク等)を基に工事監督員と協議して数量を確定する。

### 21 工程関係

#### 01 工期設定

#### 01 工期設定について

工期：2026年6月5日から2026年12月25日まで

工期には、施工に必要な実日数(実働日数)以外に以下の事項を見込んでいる。

①準備期間：40日間

②後片付け期間：20日間

③雨休率(実働工期日数に休日と悪天候により作業が出来ない日数を見込むための係数 実働日数×係数)：1.7

## 特記仕様書

※上記の他、特別に見込んでいる日数や特別に工期に影響のある事項があれば記載する。

- 02 他工事の影響
- 01 他の工事による施工時期の制約（開始時期）  
当該工事区間のL側(排水構造物工)施工は、関係機関交渉中であり、用地確定後の施工となるため令和8年8月中旬頃の予定である。
- 02 他の工事による施工時期の制約（完了時期）  
地元協議により、片側交互通行での施工を2026年10月1日までに完了すること。  
また、必要に応じて下記の近接予定工事と協議すること。  
①伏古6線整備工事（その2）  
②伏古地区第3号明渠排水路改修工事
- 03 施工の制限内容
- 01 時間的制約を求められた場合の報告  
当該工事の施工に当たり、関係機関・自治体等から通勤・通学の時間帯や周辺地域の状況により、時間的制約等を求められた場合には、工事監督員に報告すること。
- 09 埋設物等の調査等
- 01 地下埋設物の管理者等との立会い  
当該工事の施工に当たっては、地下埋設物の管理者等との現地立会を行い、当該物件の位置、深さ、保安対策等の打合せを行うこと。  
なお、「立会い打ち合わせ調書」等にその打ち合わせ内容と結果を記載して立会い者等に押印を求め、当該調書の写しを工事監督員に提出すること。
- 15 完全週休2日（土日）及び月単位の週休2日工事
- 01 完全週休2日（土日）及び月単位の週休2日工事【現場閉所】の実施について【土木工事】【空港工事】  
1. 本工事は、完全週休2日（土日）及び月単位の「週休2日工事」の対象工事である。  
2. 受注者が完全週休2日（土日）及び月単位の週休2日の施工を行う希望がある場合、工事着手前に発注者に対して完全週休2日（土日）及び月単位の週休2日に取り組む旨の協議を行い、協議が整った場合に完全週休2日（土日）及び月単位の週休2日での施工を行う工事である。なお、月単位の週休2日が達成できない場合においても通期の週休2日による施工を行わなければならない。  
3. 完全週休2日（土日）とは、対象期間内の全ての週において、土日に現場閉所されている状態をいう。  
月単位の週休2日とは、対象期間の全ての月において、土日・祝日に関わらず、4週8休以上の現場閉所を行ったと認められる状況をい

## 特記仕様書

う。

対象期間は、契約期間内において工事着手日から工事完成日までの期間をいう。なお、年末年始6日間及び夏期休暇3日間、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間、発注者があらかじめ対象外としている内容に該当する期間、受注者の責によらず現場作業を余儀なくされる期間などは対象期間に含まない。工事契約後、週休2日対象期間としていた期間において、受注者の責によらず現場作業を余儀なくされる期間が生じる場合は、受発注者間で協議して現場閉所による週休2日の対象外とする作業と期間を決定するものとする。

4. 現場閉所とは、巡回パトロールや保守点検等、現場管理上必要な作業を行う場合を除き、現場が閉所された状態をいう。なお、降雨、降雪などによる予定外の現場閉所日についても現場閉所日に含めるものとする。
5. 完全週休2日（土日）とは、対象期間の全ての週において、現場閉所を土日に指定し、1週間に2日以上現場閉所を行ったと認められる状態をいう。なお、土日に加えて、受注者自らが土日以外にも現場閉所することは可能とする。ただし、受注者の責によらず土日に施工を行わざるを得ない場合は、土日に代わる現場閉所日を指定するものとする。

月単位の4週8休とは、対象期間内の全ての月毎に現場閉所日数の割合（以下、「現場閉所率」）が28.5%（8日/28日）以上の水準に達する状態をいう。ただし、暦上の土曜日・日曜日の閉所では28.5%に満たない月は、その月の土曜日・日曜日の合計日数以上に閉所を行っている場合に、4週8休（28.5%）以上を達成しているものとみなす。

通期の4週8休とは、対象期間内の現場閉所率が、28.5%（8日/28日）の水準の状態をいう。
6. 週休2日の確保の取組は、将来の担い手確保、入職しやすい環境づくりを目指すものであることから、週休2日による施工を実施する受注者は、その趣旨に沿った休日の取得に努めるものとする。
7. 週休2日の実施の確認方法は、次によるものとする。
  - 1) 受注者は、週休2日の計画工程表を施工計画書に添付し発注者へ提出する。
  - 2) 受注者は、実施結果を発注者へ報告する。
8. 週休2日の実施状況について、発注者が必要に応じて聞き取り等の確認を行う場合には、受注者は協力するものとする。
9. 現場の閉所状況に応じて、以下の補正係数を、労務費、共通仮設費率、現場管理費率に乘じる。市場単価方式についても、現場の閉所状況に応じて補正係数を乗じるものとする。ただし、土木工事標準積算基準書（共通編）第VI編第II章市場単価に掲載されている工種のみ補正対象とする。なお、その他労務費分が明らかとなっていない単価等については、補正の対象としない。
  - 1) 現場の閉所状況  
上記5に示した現場の閉所状況を達成した場合。
  - 2) 補正方法  
当初予定価格では、月単位の4週8休の補正係数を各経費に乘じている。  
休日率の達成状況を確認後、完全週休2日を達成した場合は、完全週休2日（土日）の補正係数に設計変更をする。  
なお、月単位の4週8休に満たないものについては、補正を減ずる設計変更をする。  
ただし、週休2日工事実施要領においては、工事着工前に取組を協議することとしており、設計変更の可否は、その協議により定めた取組内容（「完全週休2日」、「月単位の週休2日」、「通期の週休2日」）に対して判断する。

## 特記仕様書

よって、結果的に履行状況が、当初協議した取組内容を上回る場合であっても、それに係る経費の補正は行わない。

※ 設計変更の事例：週休2日工事実施要領[別紙-1：7補正方法]を参照

ホームページ URL：<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kn/ksk/shukyufutsuka.html>

### 【補正係数】

完全週休2日（土日）

- ・労務費 1.02
- ・共通仮設費率 1.02
- ・現場管理費率 1.03

4週8休以上（月単位）

- ・労務費 1.02
- ・共通仮設費率 1.01
- ・現場管理費率 1.02

市場単価方式の週休2日補正係数は、下記ホームページによる

URL：<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kn/ksk/shukyufutsuka.html>

10. 「週休2日工事」について、受注者を対象としたアンケート調査に協力するものとする。

アンケートフォームURL：[https://www2.pref.hokkaido.lg.jp/kn/ksk/syuukyufutuka\\_ssl/](https://www2.pref.hokkaido.lg.jp/kn/ksk/syuukyufutuka_ssl/)

11. 週休2日の実施計画書提出後、当該工事の全体工期については、影響はでないものの、一部の施工内容・箇所に変更があり、工期内の期限を設ける必要がある場合は、対象期間外と出来る場合があるので、受発注者間協議を行うこと。

24 安全対策関係

01 交通安全施設の指定

01 交通安全管理の仕様

交通安全管理については、設計図等に基づくものとする。

なお、地域住民・警察との協議、関連工事との調整等により変更の必要が生じた場合には、工事監督員と協議すること。

03 交通誘導警備員、警戒船、発破作業等の制約

01 交通誘導警備員の配置（片側交互通行）

当該工事の施工に当たっては、片側交互通行を予定している。

ただし、近隣住民や大型交通車両の通行に支障とならないこと。

なお、毎日の作業終了後は現況幅員程度を確保することとし、一般交通等に支障がないよう安全対策を講じること。

## 特記仕様書

- 27 建設副産物・廃棄物関係
- 01 発生土の工事間利用・仮置条件
- 02 掘削土の搬入先  
当該工事の不足土は、土取場の掘削土を工事区間近隣の仮置き場（片道運搬距離6.2km）に搬入すること。
- 03 発生土の流用、搬出  
床掘及び切土により発生する土砂は、工区内で流用すること。なお、残土は工事区間近隣の仮置き場（片道運搬距離0.3km）に搬出すること。  
搬出先は、監督員と協議すること。
- 02 再生資材等の利用
- 01 再生アスファルト混合物の使用  
当該工事における再生アスファルト混合物の使用については、次のとおりとする。
- 1 再生細粒度ギャップアスファルト混合物：表層（車道）
  - 2 再生粗粒度アスファルト混合物：基層（車道）
  - 3 再生アスファルト安定処理：上層路盤（車道）
  - 4 再生細粒度アスファルト混合物：表層（歩道）
  - 5 再生密粒度アスファルト混合物：表層（取付）
- 02 コンクリート再生骨材について
- 1 コンクリート再生骨材を路盤用材料等に使用する場合は品質確保については、「土木工事共通仕様書」による。
  - 2 コンクリート再生骨材の品質管理は、製造者の試験成績結果によることができる。  
確認の頻度は、製造施設毎に年1回以上とする。ただし、品質に変動が見受けられる場合は、確認の頻度を増やすなど考慮すること。  
なお、品質については、事前に確認すること。
  - 3 コンクリート再生骨材を路盤等に使用する場合は、基本的に100%で使用するものとする。  
施工時期が確定した時点で、再資源化施設に供給量の確認を行い、施工協議簿に別途配布の「再生骨材の出荷確認について」の写しを添付し、工事監督員に報告すること。
- 03 コンクリート再生骨材の使用（再生骨材単価が、再資源化施設渡し単価で設定されている地域）  
当該工事におけるコンクリート再生骨材の使用については、次のとおりとする。

## 特記仕様書

- 1 コンクリート再生骨材：0～40mm級（各基礎材、下層路盤）
- 2 コンクリート再生骨材：0～80mm級（各基礎材、凍上抑制層）

また、再資源化施設は十勝管内（積算上、運搬費等も含めて一番安価な処理施設を想定）（片道運搬距離：2.6km）を予定しているが、施工時期が確定した時点で、再資源化施設に供給量の確認を行い、施工協議簿に別途配布の「再生骨材の出荷確認について」の写しを添付し、工事監督員に報告すること。

- 03 建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律  
01 建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律

この工事は「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（平成12年法律第104号、以下「建設リサイクル法」という）」に基づき、分別解体等及び特定建設資材廃棄物の再資源化等の実施が義務付けられた工事である。

- 04 資源の有効な利用の促進に関する法律  
01 資源の有効な利用の促進に関する法律

建設発生土の搬出先について、資源有効利用促進法関係省令に基づき、受注者の最終搬出先までの確認義務が生じる工事であるため留意すること。

- 05 副産物・廃棄物の処理条件  
01 舗装の切断作業時に発生する排水について

舗装切断作業に伴い、切断機械から発生する排水については、排水吸引機能を有する切断機械等により回収するものとする。

回収された排水については、関係機関等と協議の上、適正に処理するものとし、必要と認められる経費については設計変更の対象とするため、必要な資料を提出の上、工事監督員と協議すること。

- 02 特定建設資材廃棄物の処理条件

分別解体等によって発生する特定建設資材廃棄物（コンクリート塊、発生木材、アスファルト・コンクリート塊）は、次のとおり再資源化等を実施することとするが、受注者において適正な処理施設を選定し、施工計画書に建設廃棄物における適正処理計画について記載すること。

また、処分場所については積算上の条件明示であり、処分場所を指定するものではない。なお、受注者の提示する処理施設と積算上想定している処理施設が異なる場合においても設計変更の対象としない。ただし、現場条件や数量の変更等、受注者の責によるものでない事項についてはこの限りではない。また、変更が生じた場合は、必要な資料を提出の上、工事監督員と協議すること。

- 1 アスファルト塊

(1) 処分場所：芽室町内（受入可能な施設のうち、積算上運搬費等も含めて一番安価な処理施設を想定）

## 特記仕様書

- (2) 運搬距離 : 片道運搬距離3.4km
- (3) 処理方法 : 再資源化
- (4) 受入条件 : -

### 2 コンクリート塊

- (1) 処分場所 : 芽室町内 (受入可能な施設のうち、積算上運搬費等も含めて一番安価な処理施設を想定)
- (2) 運搬距離 : 片道運搬距離2.6km
- (3) 処理方法 : 再資源化
- (4) 受入条件 : -

### 03

#### 建設副産物の処理条件

当該工事の施工により発生する建設副産物の処理については、次のとおりとするが、受注者において適正な処理施設を選定し、施工計画書に建設副産物における適正処理計画について記載すること。また、処分場所については積算上の条件明示であり、処分場所を指定するものではない。なお、受注者の提示する処理施設と積算上想定している処理施設が異なる場合においても設計変更の対象としない。

ただし、現場条件や数量の変更等、受注者の責によるものでない事項についてはこの限りではない。また、変更が生じた場合は、必要な資料を提出の上、工事監督員と協議すること。

#### 1 建設汚泥

- (1) 処分場所 : 芽室町内 (受入可能な施設のうち、積算上運搬費等も含めて一番安価な処理施設を想定)
- (2) 運搬距離 : 片道運搬距離5.6km
- (3) 処理方法 : 最終処分
- (4) 受入条件 : 有機性汚泥に限る

#### 4 すき取り物

- (1) 処分場所 : 芽室町内 (受入可能な施設のうち、積算上運搬費等も含めて一番安価な処理施設を想定)
- (2) 運搬距離 : 片道運搬距離2.6km

## 概数として扱う数量一覧表

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	前回数量	今回数量	数量増減	概要
道路改良		式		1		
構造物撤去工		式		1		
運搬処理工		式		1		
殻運搬	アスファルト殻	m3		180		概数
殻運搬	コンクリート殻(無筋)	m3		5		概数
殻処分	アスファルト殻	t		414		概数
殻処分	コンクリート殻(無筋)	t		12		概数
鉄くず運搬	鉄くず	t		3.88		概数
現場発生品運搬	廃プラ	t		0.03		概数
現場発生品処分	廃プラ	t		0.03		概数
現場発生品処分	汚泥	t		0.73		概数
仮設工		式		1		
交通管理工		式		1		

## 概数として扱う数量一覧表

	工事名	伏古6線整備工事			当初	事業区分	道路新設・改築
						工事区分	道路改良
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	前回数量	今回数量	数量増減	摘要	
交通誘導警備員 B		人日		94		概数	
共通仮設費		式		1			
共通仮設費		式		1			
準備費		式		1			
立木・伐開物・抜根物運搬費	すき取り物	t		50		概数	
立木・伐開物・抜根物処分費	すき取り物	t		50		概数	

位 置 図

# 位 置 図

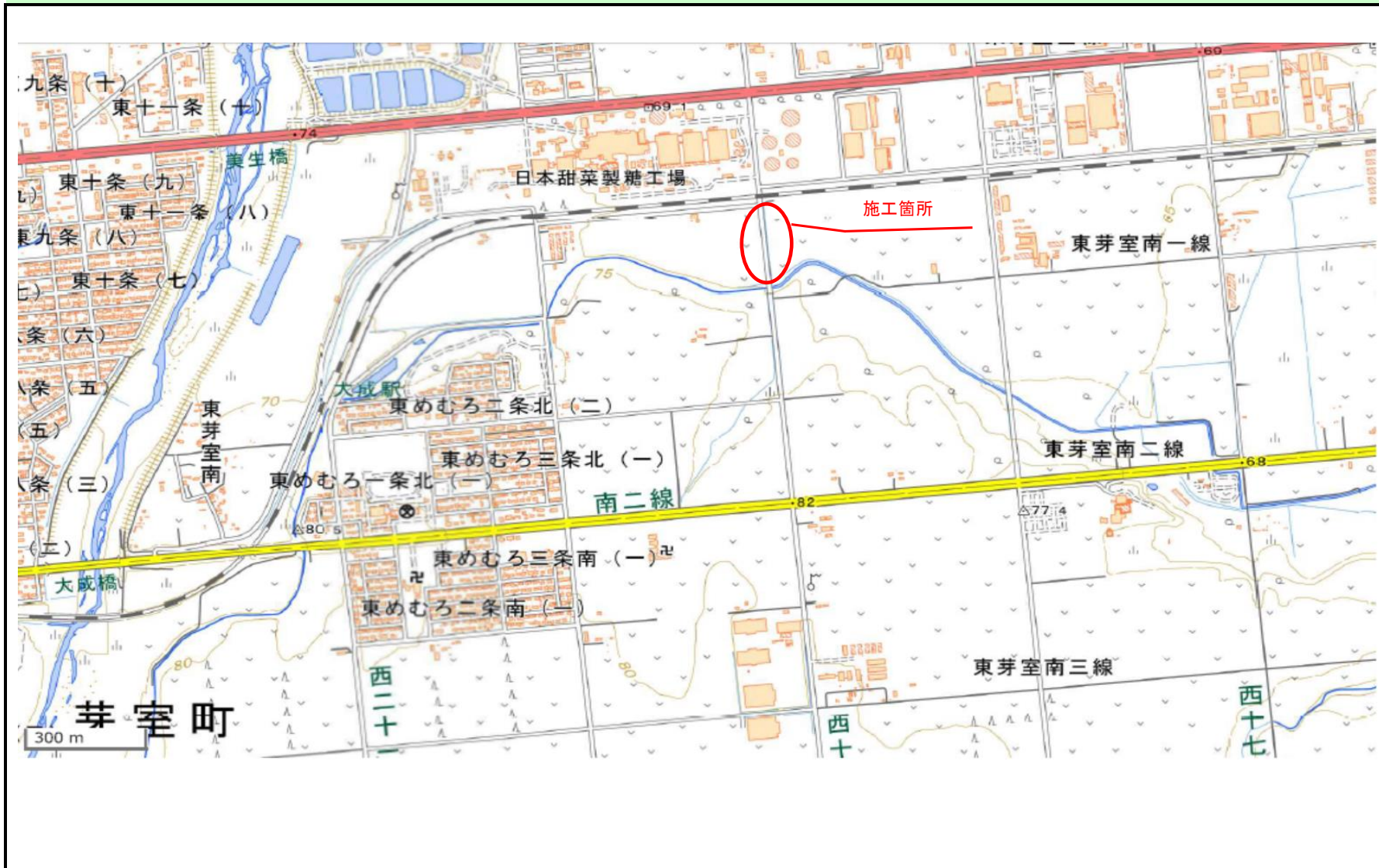
工事名	伏古6線整備工事							
施工箇所	大成							
範囲	起 点	北緯	42度55分14秒	東経	143度4分57秒	終 点	北緯	東経

※工事箇所の住所については施工起点の左側の住所としています。

※緯度経度については、世界測地系であり地理院地図を利用した簡易測定結果。



図面は上が北です



- <凡例>
- 旗揚線
  - 施工箇所
  - 施工箇所塗り
    - ・起点を示せる工事 (矢印の先が終点)
    - ・起点を示せない工事 (区域を囲う)
  - 建設副産物の仮置箇所
    - 建設副産物の仮置場
  - 残土処理場箇所・仮置箇所
    - ▲ ○○場箇所
  - 土取場箇所・発生土受渡箇所
    - ▲ ○○場箇所
  - その他指定する箇所 (仮設ヤード等)
    - ○○場箇所
  - 輸送起点等
    - ○○起点
  - 表示情報 (表示している情報は■)
    - 施工箇所・施工範囲
    - 建設副産物の仮置箇所
    - 残土処理場
    - 仮置場
    - 土取場
    - 発生土受渡箇所
    - 輸送起点箇所
    - その他

備 考

# 工 事 数 量 総 括 表

工事名          伏古6線整備工事

芽室町環境土木課

## 工事数量総括表

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	道路新設・改築		
						道路改良		
						摘要		
						現場条件	単位	数量
道路改良		式		1				
道路土工		式		1				
掘削工(流用土)		式		1				
掘削	土砂オープncut無し無し5,000m3 未満	m3		540		< 1 m3当たり > 掘削	m 3	1
掘削工(流用土)		式		1				
掘削	土砂オープncut無し無し5,000m3 未満	m3		50		< 1 m3当たり > 掘削	m 3	1
土砂等運搬	土砂(岩塊・玉石混り土含む) 【ダンプトラック[オンロード ・ディーゼル] 10t積級 】【タイヤ損耗費 10t積級 良好 供用日】	m3		50		< 1 m3当たり > 土砂等運搬	m 3	1
路体盛土工		式		1				
路体(築堤)盛土	2.5m未満	m3		10		< 1 m3当たり > 路体(築堤)盛土	m 3	1
路床盛土工		式		1				

## 工事数量総括表

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	概要		
						現場条件	単位	数量
路床盛土	2.5m未満	m3		240		< 1 m3当たり > 路床盛土	m 3	1
路床盛土	2.5m以上4.0m未満	m3		420		< 1 m3当たり > 路床盛土	m 3	1
土砂等運搬	土砂(岩塊・玉石混り土含む) 【ダンプトラック[オンロード ・ディーゼル] 10t積級 】【タイヤ損耗費 10t積級 良好 供用日】	m3		210		< 1 m3当たり > 土砂等運搬	m 3	1
法面整形工		式		1				
法面整形(切土部)	無し(質土、砂及び砂質土、粘性土)	m2		54		< 1 m2当たり > 法面整形	m 2	1
法面整形(盛土部)	無し無し	m2		533		< 1 m2当たり > 法面整形	m 2	1
路盤工内法面整形	盛土部無し無し	m2		280		< 1 m2当たり > 法面整形	m 2	1
残土処理工		式		1				
整地	残土受入れ地での処理	m3		150		< 1 m3当たり > 整地	m 3	1

## 工事数量総括表

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	概要		
						現場条件	単位	数量
土砂等運搬	土砂(岩塊・玉石混り土含む) 【ダンプトラック[オンロード ・ディーゼル] 10t積級 】【タイヤ損耗費 10t積級 良好 供用日】			150		< 1 m3当たり > 土砂等運搬	m 3	1
法面工		式		1				
植生工		式		1				
張芝	張芝工500m2以上	m2		1,040		< 1 m2当たり > 人力施工による植生工	m2	1
排水構造物工		式		1				
作業土工		式		1				
(床掘り)	土砂	(m3)		( 150)		< 1 m3当たり > 床掘り	m 3	1
(埋戻し)		(m3)		( 40)		< 1 m3当たり > 埋戻し	m 3	1
(基面整正)		(m2)		( 146)		< 1 m2当たり > 基面整正	m 2	1
側溝工		式		1				

## 工事数量総括表

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	概要		
						現場条件	単位	数量
伏古6線整備工事				(当初)	事業区分	道路新設・改築		
					工事区分	道路改良		
プラスチックU型側溝	300B・2000mm/個 【U型側溝   300B 2000mm/個 参考質量264kg/個 ロングタイプ エスラック コンクリート対応品含む】 【切込砂利   0 ~ 80mm】	m		292		< 1 m当たり > U型側溝	m	1
裏込碎石	切込砂利0~80mm 【切込砂利   0 ~ 80mm】	m <sup>3</sup>		50		< 1 m <sup>3</sup> 当たり > 裏込碎石	m <sup>3</sup>	1
集水樹・マンホール工		式		1				
プラスチック集水樹	型A	箇所		1		< 1 箇所当たり > プレキャスト集水樹 下部樹 コンクリート蓋	基 個 組	1 1 1
プラスチック集水樹	型D	箇所		7		< 1 箇所当たり > プレキャスト集水樹 下部樹 樹蓋	基 個 枚	1 1 1
フレキシブルパイプ設置工	【合成樹脂管   波状管 200mm m 無孔管 耐圧強度2300N/m以上 可とう性35mm/50N以上 長さ 4m/本 導水用にも適用可】			38		< 1 m当たり > 暗渠排水管	m	1

## 工事数量総括表

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	道路新設・改築 道路改良		
						概要		
						現場条件	単位	数量
構造物撤去工		式		1				
標識撤去工		式		1				
標識撤去		基		1		< 1 基当たり > 標識柱撤去(片持式・門型式) 基礎ブロック設置工 標識板撤去(添架式)	基 個 基	1 1 1
舗装撤去工		式		1				
(舗装版切断【12cm】)	アスファルト舗装版15cm以下	(m)		( 190)		< 1 m当たり > 舗装版切断	m	1
(舗装版破碎【12cm】)	アスファルト舗装版15cm以下	(m2)		( 1,430)		< 1 m2当たり > 舗装版破碎	m 2	1
(舗装版破碎【13cm】)	アスファルト舗装版15cm以下(アスカフ撤去)	(m2)		( 23)		< 1 m2当たり > 舗装版破碎	m 2	1
(舗装版破碎【3cm】)	アスファルト舗装版15cm以下	(m2)		( 200)		< 1 m2当たり > 舗装版破碎	m 2	1
構造物取壊し工		式		1				

## 工事数量総括表

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	道路新設・改築 道路改良		
						概要		
						現場条件	単位	数量
コンクリート構造物取壊し	無筋構造物機械施工	m <sup>3</sup>		5		< 1 m <sup>3</sup> 当たり > 構造物とりこわし	m <sup>3</sup>	1
土留版撤去		m <sup>2</sup>		63		< 1 m <sup>2</sup> 当たり > 横矢板設置・撤去	m <sup>2</sup>	1
H形鋼	引抜長3m以下	本		42		< 1 本当たり > H形鋼工(バック杓装着式 油圧ハイパー)	本	1
排水構造物撤去工		式		1				
暗渠排水管撤去	撤去	m		23		< 1 m当たり > 暗渠排水管	m	1
運搬処理工		式		1				
殻運搬	アスファルト殻 【ダンプトラック [ オンロード ・ディーゼル ]   10 t 積級 】 【タイヤ損耗費   10 t 積級 良好 供用日 】	m <sup>3</sup>		180		< 1 m <sup>3</sup> 当たり > 殻運搬	m <sup>3</sup>	1
殻運搬	コンクリート殻(無筋) 【ダンプトラック [ オンロード ・ディーゼル ]   10 t 積級 】 【タイヤ損耗費   10 t 積級 良好 供用日 】	m <sup>3</sup>		5		< 1 m <sup>3</sup> 当たり > 殻運搬	m <sup>3</sup>	1
殻処分	アスファルト殻 【アスファルト塊受入費   30 t ~ 50 cm程度の大きさ 】	t		414		< 1 t 当たり > 処分費 (t)	t	1

## 工事数量総括表

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	道路新設・改築 道路改良		
						概要		
						現場条件	単位	数量
殻処分	コンクリート殻(無筋) 【コンクリート塊受入費   無筋 30cm程度の大きさ】	t		12		< 1 t 当たり > 処分費 (t)	t	1
鉄くず運搬	鉄くず	t		3.88		< 1 t 当たり > 現場発生品及び支給品運搬	t	1
現場発生品運搬	廃プラ	t		0.03		< 1 t 当たり > 現場発生品及び支給品運搬	t	1
現場発生品処分	廃プラ	t		0.03		< 1 t 当たり > 産業廃棄物中間処理料金	t	1
						産業廃棄物中間処理料金	t	1
現場発生品処分	汚泥	t		0.73		< 1 t 当たり > 産業廃棄物中間処理料金	t	1
						産業廃棄物中間処理料金 循環税相当額	t	1
仮設工		式		1				
交通管理工		式		1				
(交通誘導警備員 B)		(人日)		( 94)		< 1 人日 当たり > 交通誘導警備員 B	人日	1
舗装		式		1				

## 工事数量総括表

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	道路新設・改築		
						舗装		
工事名 伏古6線整備工事 (当初)						概要		
						現場条件	単位	数量
舗装工		式		1				
舗装準備工		式		1				
不陸整正	有り各種46mm以上53mm未満 【再生骨材   0 ~ 40mm】 【ダンプトラック [ オンロード ・ディーゼル ]   10t 積級 】 【タイヤ損耗費   10t 積級 良好 供用日】	m2		1,220		< 1 m2当たり > 不陸整正 土砂等運搬	m2 m3	1 0.05
不陸整正	無し	m2		448		< 1 m2当たり > 不陸整正	m2	1
アスファルト舗装工		式		1				
凍上抑制層	各種切込砂利   0~80mm 550mm 【再生骨材   0 ~ 80mm】 【ダンプトラック [ オンロード ・ディーゼル ]   10t 積級 】 【タイヤ損耗費   10t 積級 良好 供用日】	m2		496		< 1 m2当たり > 下層路盤 (歩道部) 土砂等運搬	m2 m3	1 0.58
下層路盤	各種切込砂利   0~40mm 300mm 【再生骨材   0 ~ 40mm】 【ダンプトラック [ オンロード ・ディーゼル ]   10t 積級 】 【タイヤ損耗費   10t 積級 良好 供用日】	m2		663		< 1 m2当たり > 下層路盤 (歩道部) 土砂等運搬	m2 m3	1 0.3

## 工事数量総括表

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	道路新設・改築		
						舗装		
工事名 伏古6線整備工事 (当初)						概要		
						現場条件	単位	数量
下層路盤	各種切込砂利   0~40mm270mm 【再生骨材   0~40mm】 m2 【ダンプトラック [ オンロード・ディーゼル ]   10t 積級】 【タイヤ損耗費   10t 積級 良好 供用日】			13		< 1 m2当たり > 下層路盤 (歩道部) 土砂等運搬	m2 m3	1 0.28
装甲路肩路盤	粒度調整碎石   0~40 60mm 【再生骨材   0~40mm】 m2 【ダンプトラック [ オンロード・ディーゼル ]   10t 積級】 【タイヤ損耗費   10t 積級 良好 供用日】			114		< 1 m2当たり > 上層路盤 (歩道部) 土砂等運搬	m2 m3	1 0.06
装甲路肩路盤	粒度調整碎石   0~40 110mm 【再生骨材   0~40mm】 m2 【ダンプトラック [ オンロード・ディーゼル ]   10t 積級】 【タイヤ損耗費   10t 積級 良好 供用日】			113		< 1 m2当たり > 上層路盤 (歩道部) 土砂等運搬	m2 m3	1 0.11
上層路盤(車道・路肩部)	再生瀝青安定処理材(40)60mm 【再生アスファルト安定処理   A s 量 3.5~5.5% 配合率 50% 車道用】 m2			1,340		< 1 m2当たり > 上層路盤 (車道・路肩部)	m2	1
上層路盤(車道・路肩部)	再生瀝青安定処理材(40)50mm 【再生アスファルト安定処理   A s 量 3.5~5.5% 配合率 50% 車道用】 m2			99		< 1 m2当たり > 上層路盤 (車道・路肩部)	m2	1
基層(車道・路肩部)	再生粗粒度アスコン(20)50mm3.0m超 【再生粗粒度アスファルト混合物   A s 量 4.5~6.5% 配合率 50% 車道用】 m2			1,320		< 1 m2当たり > 基層 (車道・路肩部)	m2	1

## 工事数量総括表

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	道路新設・改築		
						事業区分	工事区分	舗装
						概要		
						現場条件	単位	数量
基層(車道・路肩部)	再生粗粒度アスコン(20)50mm3.0m超 プライムコート 【再生粗粒度アスファルト混合物   A s 量 4 . 5 ~ 6 . 5 % 配合率 5 0 % 車道用】	m2		122		< 1 m2当たり > 基層(車道・路肩部)	m 2	1
表層(車道・路肩部)	再生細粒度ギャップアスコン(13F)40mm 3.0m超 【再生細粒度ギャップアスファルト混合物   A s 量 6 . 0 ~ 8 . 0 % 配合率 5 0 % 車道用】	m2		1,440		< 1 m2当たり > 表層(車道・路肩部)	m 2	1
表層(車道・路肩部)	再生細粒度プライムコート 【再生細粒度ギャップアスファルト混合物   A s 量 6 . 0 ~ 8 . 0 % 配合率 5 0 % 車道用】	m2		108		< 1 m2当たり > 表層(車道・路肩部)	m 2	1
表層(車道・路肩部)	再生密粒度アスコン(13)30mm3.0m超 【再生密粒度アスファルト混合物   1 3 F A s 5 . 5 ~ 6 . 3 % 率 5 0 % 車道用】	m2		110		< 1 m2当たり > 表層(車道・路肩部)	m 2	1
歩道設置工		式		1				
凍上抑制層(歩道部)	各種切込砂利   0~80mm 170mm 【再生骨材   0 ~ 8 0 m m】 【ダンプトラック [ オンロード・ディーゼル ]   1 0 t 積級】 【タイヤ損耗費   1 0 t 積級 良好 供用日】	m2		271		< 1 m2当たり > 下層路盤(歩道部)  土砂等運搬	m 2 m 3	1 0.18

## 工事数量総括表

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	道路新設・改築		
						舗装		
工事名 伏古6線整備工事 (当初)						概要		
						現場条件	単位	数量
凍上抑制層(歩道部)	各種切込砂利   0~80mm 200mm 【再生骨材   0~80mm】 【ダンプトラック [ オンロード・ディーゼル ]   10t 積級】 【タイヤ損耗費   10t 積級 良好 供用日】	m <sup>2</sup>		256		< 1 m <sup>2</sup> 当たり > 下層路盤(歩道部) 土砂等運搬	m <sup>2</sup> m <sup>3</sup>	1 0.21
下層路盤(歩道部)	各種切込砂利   0~40mm 100mm 【再生骨材   0~40mm】 【ダンプトラック [ オンロード・ディーゼル ]   10t 積級】 【タイヤ損耗費   10t 積級 良好 供用日】	m <sup>2</sup>		273		< 1 m <sup>2</sup> 当たり > 下層路盤(歩道部) 土砂等運搬	m <sup>2</sup> m <sup>3</sup>	1 0.1
表層(歩道部)	再生細粒度アスコン(13)30mm1.4m以上 【再生細粒度アスファルト混合物   A s 量 7.5~9.5% 配合率 50% 歩道用】	m <sup>2</sup>		273		< 1 m <sup>2</sup> 当たり > 表層(歩道部)	m <sup>2</sup>	1
縁石工		式		1				
縁石工		式		1				
歩車道境界ブロック	車道用縁石 型   標準 【車道用縁石 型   標準 参考 質量95kg/枚 コスガ コンクリート対応 品含む】 【生コンクリート 混合B種   C-1 (-)-8-20(25)】	m		159		< 1 m当たり > 歩車道境界ブロック	m	1

## 工事数量総括表

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	道路新設・改築		
						舗装		
						摘要		
						現場条件	単位	数量
標識工		式		1				
小型標識工		式		1				
道路標識	撤去・再設置	基		2		< 1 基当たり > 標識板設置 (警戒・規制・指示・路線番号標識) 標識板撤去 (警戒・規制・指示・路線番号標識) 道路標識設置・撤去 道路標識設置・撤去 基礎ブロック設置工 基礎ブロック設置工	基 基 基 基 個 個	1 1 1 1 1 1
区画線工		式		1				
区画線工		式		1				
熔融式区画線	熔融式手動実線 45cm厚1.5mm無し	m		3		< 1 m当たり > 区画線設置	m	1
ハット式区画線	ハット式 溶剤型実線 15cm常温	m		330		< 1 m当たり > 区画線設置	m	1

## 工事数量総括表

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	道路新設・改築		
						舗装		
工事名 伏古6線整備工事 (当初)						摘要		
						現場条件	単位	数量
△イ外式区画線	△イ外式 溶剤型破線 15cm常温	m		87		< 1 m当たり > 区画線設置	m	1
溶融式区画線	溶融式手動破線 30cm厚1.5mm無し	m		25		< 1 m当たり > 区画線設置	m	1
道路付属施設工		式		1				
作業土工		式		1				
(床掘り)	土砂	(m3)		( 20)		< 1 m3当たり > 床掘り	m 3	1
(埋戻し)		(m3)		( 10)		< 1 m3当たり > 埋戻し	m 3	1
道路付属物工		式		1				

## 工事数量総括表

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	道路新設・改築		
						事業区分	工事区分	舗装
						摘要		
						現場条件	単位	数量
視線誘導標	土中建込10本以上30本未満 【鋼製大型視線誘導標   1基セット本 (アンカーボルト、管理標、樹脂製水切り チップ、支柱、矢羽根を含む) 建 込手間、基礎工事、標識板を含 まず】【固定式視線誘導柱用基 礎ブロック   800×800×1300 参考重量1955kg/個】【切 込砂利   0~80mm】			2		< 1 本当たり > 鋼製大型視線誘導標設置・撤去 材料費(鋼製大型視線誘導標) 材料費(基礎ブロック) 法止めブロック 基面整正 基礎砕石	基 基 個 個 m <sup>2</sup> m <sup>2</sup>	1 1 1 1 1 1
直接工事費		式		1				
共通仮設費		式		1				
共通仮設費		式		1				
運搬費		式		1				
準備費		式		1				
(立木・伐開物・抜根物運搬費)	すき取り物	(t)		( 50)		< 1 t当たり > 立木、伐開物、抜根物等運搬	t	1

## 工事数量総括表

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	摘要		
						現場条件	単位	数量
(立木・伐開物・抜根物処分費)	すき取り物	(t)		( 50)		< 1 t当たり > 産業廃棄物一般廃棄物処理料金	t	1
現場環境改善費(率計上)		式		1				
共通仮設費(率計上)		式		1				
純工事費		式		1				
現場管理費		式		1				
工事原価		式		1				
一般管理費等		式		1				
工事価格		式		1				
消費税相当額		式		1				
工事費計		式		1				